

自然保育推進事業 活動報告書

1. 社会福祉法人光耀福祉会 かやのみこども園

2. 【テーマ】「自然の中で生きる力を育む保育をめざして」

(1) できるだけ裏山には人工的な手を加えず、自然の形のままを残して遊んでいるが、ハチやイノシシなどの生き物も共存しているため、事前の安全確認は怠らないようにしている。

(2) 春には桜の花が満開に咲き誇るが、ここ数年温暖化の影響のためかどんどん開花の時期が早まる。新学期を迎えたら、すぐにお花見に出かけなければ散ってしまう。

5月には「ぼての葉」を取り、かしわ餅を作って包んで蒸すと色が変わり、日頃嗅ぐことがない匂いを嗅いだりする。

夏は、やぶ蚊が多く発生するために、裏山遊びから遠ざかってしまうが、夏には水遊びを存分に楽しみ、秋になったら散歩も兼ねて1歳児クラスも裏山へ出かけ、どんぐりやきれいに色づいた葉っぱを拾いに出かけ、拾った木の実や落ち葉でままごと遊びや製作遊びを楽しむ。自然の中で遊びを通して数・量・計、色、言葉なども気づき学んでいく。

かなりの坂道を歩くので、足腰の力がつき、4・5歳児になると山頂まで登る日もある。絵本を持って出かけたり、おやつを持って出かけたりすることも楽しんでいる。

毎年、年長児の保護者には子どもたちが遊んできた場所や仲間と共有してきた時間を知ってもらうために、親子でネイチャーゲームと登山を親子で体験してもらっている。

保護者の中には卒園生も多く、懐かしさを感じたり久しぶりの体力消耗に年を取ったと感じたりされている。

今年度は、森の中で探しものする「ふい〜るとびんご」を親子で楽しんだ。バンダナを袋にすることから始まり、最後は見つけたものを親子で確認していくが、見つけたものすべてがOKという肯定感を感じてもらうこともできた。

「山には、楽しさもあるが危険もある」ことを、いつも子どもたちに伝えていて、山へ行くときの服装にも気をつけている。長ズボンにソックス、運動靴を履き、必ず帽子を被る約束をしている。また、「保育者の見える範囲で遊ぶこと」「笛が鳴ったら元の場所に集合すること」を約束していて、保育者は必ず笛、携帯電話、救急箱を持って出かけるようにしている。

四季折々に見られる景色、匂い、解放感、発見する喜びなど、五感を感じて育つことのできる裏山、そして毎日を通す園庭には、ある程度の安全が確保され、シンプルであって良いと考えている。

「裏山遊びとお花見弁当」



親子でネイチャーゲームと登山」

